

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 太平洋高気圧は、西日本から沖縄・奄美付近に張り出し、次第に北への張り出しを強める。
- 30日は、低気圧が北日本を通過し、前線は北日本付近を南下する。
- 31日は、低気圧が千島近海に進み、日本付近の前線は不明瞭となる。
- 8月1日から3日にかけて、気圧の谷もしくは前線が北海道付近にのびる。

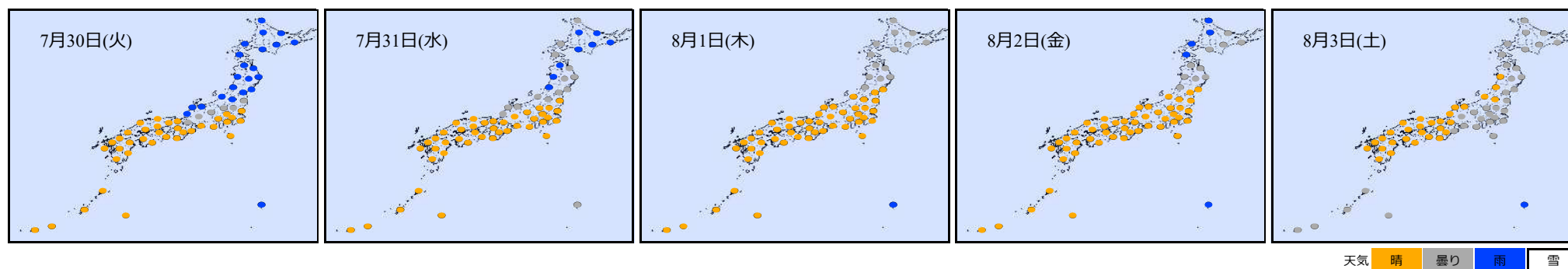
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 30日頃にかけて、前線や低気圧、暖かく湿った空気の影響により、東北地方では警報級の大雨となるおそれがあり、北海道や北陸地方でも暖かく湿った空気の流れ込みの程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。
- 気温が平年よりかなり高くなる所がある。熱中症など健康管理に留意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

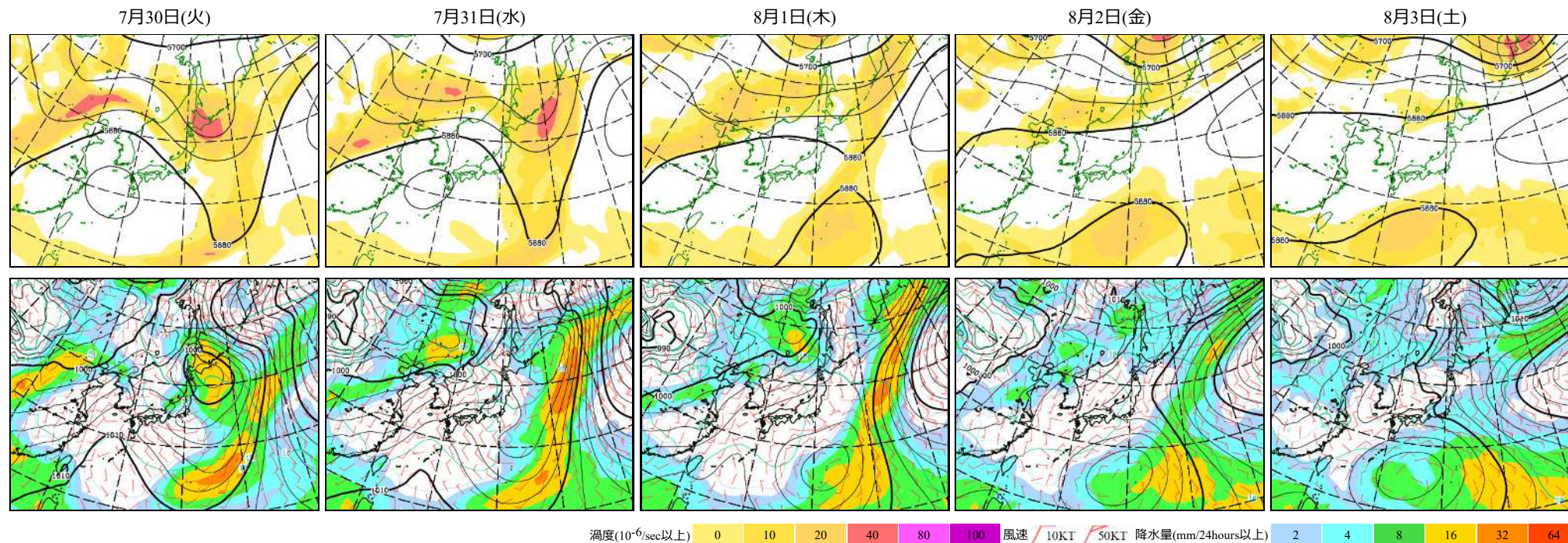
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

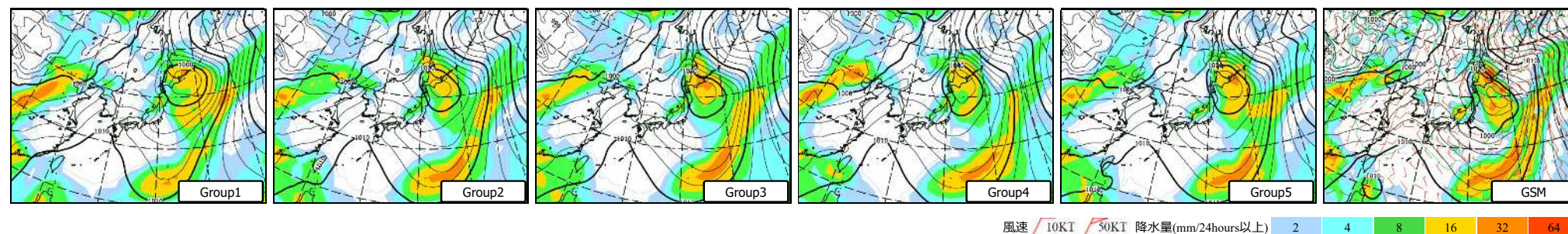


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、8月1日から3日は晴れる所がある。
- 東日本日本海側は、30日と31日は雲が広がりやすく、30日は雨が降る。8月1日から3日は晴れる所が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れや曇りの日が多い。
- 西日本は、晴れる日が多い。
- 沖縄・奄美は、晴れる日が多いが、8月3日は雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月30日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、30日頃に北日本に進むトラフが深めとなり、北日本を通過する低気圧が明瞭となった。その後は、日本の東のトラフが浅めとなり、サブハイの本州付近への張り出しが強まった。期間の後半に日本の南を西進する低気圧が明瞭となった。
- 30日頃に北日本に進むトラフや低気圧の予想は各モデルとも初期値変わりしているが、モデル間の差が小さくなる形で変化した。期間の後半はサブハイの本州付近への張り出しが強まったモデルが多い。また、期間の後半は熱帯じょう乱が日本の南を西に進む可能性があるが、位置や発達程度のばらつきは大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。